

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年10月13日更新

事務事業名		合志市市民大学事業					☒ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連					
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり					所属部	教育委員会事務局	課長名	上原 哲也	
	施策	20	生涯学習の推進					所属課	生涯学習課	担当者名	菅真一郎	
	基本事業	67	学習・スポーツの啓発					所属班	生涯学習班	(内線)	1504	
予算科目		会計一般	款10	項5	目3	事業連番11348	法令根拠					
終了、開始年度		☐ 22年度で終了 ☐ 22年度から開始					事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 21 年度) ☐ 期間限定複数年度 (～ 年度)				

★事務事業の概要（具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事業の内容】	生活や地域の課題に対応するために幅広い知識や技術の習得を目指す市民に対し学習機会を提供するため、市と連携する県内の高等教育機関等の協力の下、市民大学を設立し各種講座を開講した。 今年度は「歴史・文学」「健康」「環境」「身近なバイオテクノロジー」の4つのコースを設け、1コースにつき3コマの連続講座を実施した（「身近なバイオテクノロジー」コースは2コマ）。 各講座とも、本市と学術連携協定を結んでいる大学や学校、また県内の専門家を講師とした。
（開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む）	
【業務の流れ】	①テーマ及び講座・講師の選定。②講師の依頼。③受講生の募集。④講師との打ち合わせ。⑤講義の準備。⑥講師謝金等の支払い。
【主な予算費目】	報償費（講師謝金）・人件費（担当者時間外勤務手当）
【意見や要望】	毎回、講義終了後にアンケートをとっているが、受講生からは、次年度に学びたい内容や、講座の開始時間などについての意見や要望が寄せられている。
関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

1 現状把握の部（DO、PLAN）

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動) (DO)		23年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
1回の講座は、午後7時30分から(1時間30分程度)開講。11月～12月にかけて「歴史・文学」コースを3コマ、1月に「健康」コースを3コマ、2月に「環境」コースを3コマ、3月に「身近なバイオテクノロジー」コースを2コマ開講した。		23年度も複数のテーマを設定し、一つのテーマにつき3回程度の講座を開催する計画である。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア 開講講座の回数	回	
イ 受講生数	人	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)
市民		→ ア 市民
		イ
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)
幅広い知識や教養を身につけることができる。		→ ア 幅広い知識や教養を身につけることができたと考える人数
		イ
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠		

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	総トータルコスト 全体計画 ～ 年度
① 活動指標	ア 回		0	6	12	11	12	12	12	
	イ 人		0	139	360	140	180	180	180	
② 対象指標	ア 人		0	55,036	0	55,828	56,000	56,500	56,000	
	イ									
③ 成果指標	ア 人		0	125	50	140	50	50	30	
	イ									
投資入費量	事業費	国庫支出金	千円							(期間限定複数年度のみ記載)
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円			50	122	25		
		繰入金	千円							
		一般財源	千円		102	195	78	155	240	
	人件費	(A) 事業費計	千円	0	102	245	200	180	240	
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	
		正規職員従事人数	人	0	1	2	1	1	0	
人件費	延べ業務時間	時間		346	400	450	400	0	0	0
		(B) 人件費計	千円	0	1,377	1,592	1,854	1,648	0	
	トータルコスト(A)+(B)		千円	0	1,479	1,837	2,054	1,828	240	

合志市

事務事業名	合志市市民大学事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	-----------	-----	----------	-----	-------

2 評価の部（SEE）

※原則は22年度的事後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	☐ 達成した 受講生が予定人数を越えなかったため。	☒ 達成しなかった ⇒【原因】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 各コースに分け、本当に学びたい人だけが出席するようになり、受講生の延べ人数自体は減ったが、適切な受講予定者数を設定することで、実態に合った目標値を設定できるため。	☐ 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 アンケートから得た、受講希望者が学びたい分野やテーマ等の講座を開催するなどして、内容をより高めていく。	☐ 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☒ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 各課で行っている講演会や講座などと連携することで、成果の向上が期待できる。	☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 事業費のほとんどは講師への謝金であるが、主に市と学市連携している大学等から低い金額で大学教授などを招聘しているため。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？（アウトソーシングなど）	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 事業費のほとんどは講師への謝金であるため、正規職員以外の職員や外部委託する場合、別に人件費や委託料が発生してしまうため。	☒ 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 受講者は受講料を支払っており公平である。	☒ 公平・公正である ⇒【理由】
	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 受講生や市民の中から有志を募り、ボランティアの市民大学友の会や運営委員会といった組織を立ち上げ、ここに講師の選定や打ち合わせ、受講生への連絡、講座当日の受付等を行ってもらうことで、市民自身が行政とともに学びの場を作り上げていくことが今後の活性化に繋がる。	☐ 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括（SEE） ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

現在のところ、各講座の受講生数が当初の予想より少ないが、アンケート結果からみると90パーセント以上の方が満足されている。今後は、募集のやり方などに工夫を加えて、受講生の増加を目指したい。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（PLAN）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☒事業統廃合・連携 ☒事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない） 生涯学習課等で実施している様々な講座を終了した市民が、より詳しい内容を学びたいといったときに、市民大学において高度な内容の講座を実施することで、市民がより深く学ぶことができるといった連携の仕方が考えられる。		(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="3">コスト</td></tr><tr><td>削減</td><td>維持</td><td>増加</td></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上		○																				
	維持																						
	低下																						
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策 生涯学習課で実施している講座や講演会については連携しやすいが、他課の講座等については、横の連携を密にしていく必要がある。																							